

## 平成28年2月の大阪森林便り



### 国産丸太、値下がり 11月 杉柱用など5か月ぶり

堅調に推移していた国産丸太の取引価格が下落に転じました。11月の平均価格は、杉柱用、合板などに使う杉中目用がそれぞれ5か月ぶりに値下がりしました。

晴れた日が多かったため山林からの出荷が順調で、需要増分を上回る供給量がありました。杉柱用・合板用ともに1%下落。

(2016年1月7日 日本経済新聞記事から抜粋)



### 木質バイオマス発電所が稼働 奈良、間伐材を利用

間伐材などを利用する木質バイオマス発電所が、奈良県内で初めて大淀町で稼働。

約12,000世帯分の電力を供給することができます。

(2016年1月7日 日本経済新聞記事から抜粋)



### 富士山は、どうしてこんなに高いの？

#### 同じ場所で噴火を繰り返したからだよ

高い山ができる原因は、大陸などの陸地がぶつかる場合と、火山の活動。

プレートが移動して陸地同士がぶつかると、横方向から大きな力が加わりま  
す。そして、陸地に大きなしわが寄るような感じで押し上げられた部分が山に  
なります。

富士山は、約10万年にわたって大きな噴火を繰り返して今のような姿にな  
りました。

富士山は4つの火山が積み重なった「4階建て」の構造といわれます。

富士山の地下では、ユーラシアプレートと北米プレート、フィリピン海プレ  
ートという3つのプレートが交差しています。プレートが接してしずみこむ場  
所ではマグマができやすく、火山活動も活発になります。

(2016年1月9日 日本経済新聞記事から抜粋)



## 国産材 活路開く 耐震・耐火性 品質競う

### 学校や病院、幅広く開拓 林業、人材育成に課題

国産木材を使う動きが本格化してきました。国産木材は、戦後の植林が伐採期に入って蓄積量が過去最高水準に増大。2015年は推定約50億m<sup>3</sup>と、2014年比1億m<sup>3</sup>増えました。需要は2014年で2149万m<sup>3</sup>と2013年比1.8%増とどまっています。新規需要を開拓しないと蓄積過剰から森林荒廃につながってしまいます。

総務省によると、国内の林業従事者は約7万人。5年前と比べて1割程度増えたものの、1960年の44万人から激減しました。高齢化も進んでいます。65歳以上の就業者比率は、国内の全産業では1割程度ですが、林業では2割程度に達しています。

政府も林業を成長産業と位置付けています。2016年度予算では、林道整備などに使える交付金を61億円計上しました。2015年度と比べて2.3倍になります。

国産材の未来に活路を開くには、長期的視野に立った森林経営と人材育成が欠かせません。(2016年1月14・15日 日本経済新聞記事から抜粋)



## 五輪へ国産食材・建材PR 農林漁業7団体が推進協

### 調達基準で組織委に助言

農林漁業の国内7団体が、2020年の東京五輪に向けて国産の食品や建材の普及に取り組む「日本産推進協議会」を立ち上げました。

五輪関連施設で調達する食材や木材の基準づくりにかかわるほか、シンポジウムやインターネットを通じて、国産の品質の良さや安全性を日本語と英語で発信します。五輪をきっかけに肉や魚、林業も含めた輸出拡大にもつなげます。

(2016年1月22日 日本経済新聞記事から抜粋)



## 北米産丸太が一段高 対日価格 日米で住宅需要が堅調

北米産丸太の対日輸出価格が一段高となりました。松材丸太の1月積みは1%上がりました。上昇は2か月連続。

国内の木造住宅の2015年11月の着工戸数は47,485戸と前年同月と比べて5.35%増え、9か月連続で前年同月を上回りました。2015年12月の米国着工件数は6.4%増えました。

(2016年1月26日 日本経済新聞記事から抜粋)



## 「認証木材」店や住宅に 高品質・価格安定で脚光

### 紙分野にも用途広がる

適正に管理した森林で生産する木材「認証材」を使う動きが広がっています。計画的な伐採をすることができるため価格が安定し、高品質となるのも売り物。

認証材は、森林や伐採・加工・流通する木材に証明（認証）を発行します。専門の第三者機関が審査・審理します。法令や労働者の権利を遵守した生産や、森林の環境を再生可能にすることなどが認証の要件となります。国際基準のFSC認証やPEFC認証、日本独自のSGEC認証などがあります。世界の森林面積およそ40億ヘクタルのうち、認証を取得しているのは欧州を中心として1割、国内では5%にとどまっています。

木材や紙の認証品は、需要家の企業や消費者からの認知度が低いもよう。制度の周知を進めて、需要を喚起することが求められそうです。

(2016年1月28日 日本経済新聞記事から抜粋)



## 今月の木の話

## 辺材と心材の違い

一般に中心に近くて色の濃い部分が心材（赤身）で、樹皮に近い色のうすい部分が辺材（白太）です。

心材ではすべての細胞が死んでいるのに対して、辺材では柔細胞だけが生きています。

柔細胞とは、主としてでんぷん、糖類などの養分の貯蔵、配給を行う細胞です。

病気によって柔細胞が死ぬわけではなく、遺伝子にプログラムが書き込まれています。

蓄えておいた栄養分を防腐・防菌の働きのある物質に変えてから柔細胞は死にます。一般に辺材よりも心材の方が腐りにくいのは、この物質のおかげです。

(日刊木材新聞社発行「今さら人には聞けない木のはなし」より抜粋)

